

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 1 部門第 2 区分
【発行日】令和 6 年 7 月 5 日(2024.7.5)

【公開番号】特開 2022-190344(P2022-190344A)
【公開日】令和 4 年 12 月 26 日(2022.12.26)
【年通号数】公開公報(特許)2022-238
【出願番号】特願 2021-98618(P2021-98618)
【国際特許分類】
A 6 3 F 7/02(2006.01)
【F I】
A 6 3 F 7/02 3 2 6 Z

10

【手続補正書】
【提出日】令和 6 年 6 月 27 日(2024.6.27)
【手続補正 1】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】

20

【特許請求の範囲】
【請求項 1】

第 1 態様と第 2 態様とに変化可能である可動役物と、
前記可動役物に設けられ、発光した第 1 状態と第 2 状態とに発光状態を変化可能である
第 1 発光領域と、
前記可動役物と異なる複数の部位のうちの少なくとも一つに設けられ、発光した第 1 状
態と第 2 状態とに発光状態を変化可能である第 2 発光領域と、
遊技者が操作可能な操作手段と、
所定の変動演出を実行可能である表示手段と、を備え、
前記変動演出において、前記表示手段の画面に表示される第 1 画像と、前記第 1 画像が
変化して画面に表示される第 2 画像とに変化可能であり、
前記第 2 画像に変化する前記変動演出が行われるとき、前記第 1 発光領域と前記第 2 発
光領域のうちの少なくとも 1 つとを連係して前記第 2 状態に変化する発光演出が実行可能
であり、
前記第 1 画像から前記第 2 画像に変化するまでの第 1 期間と、前記第 2 画像から前記第
1 画像に変化するまでの第 2 期間との長さが異なり、
前記変動演出の実行中に前記操作手段を振動させる振動演出を実行可能であり、
前記振動演出には、
始動条件の成立に基づき前記表示手段に保留表示を増加表示することが可能であり、
前記変動演出の実行中に発生する有効期間中の前記操作手段の操作に応じて実行される
第 1 振動演出と、
前記有効期間を伴わずに実行される第 2 振動演出と、を含み、
前記保留表示を増加表示させる第 1 時間よりも長い時間にわたって前記第 1 振動演出及
び / 又は前記第 2 振動演出を実行可能であることを特徴とする遊技機。

30

40

【手続補正 2】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0007
【補正方法】変更
【補正の内容】
【0007】

50

上記課題を解決するため、本発明の遊技機（１）によれば、第１態様（待機位置で停止）と第２態様（演出動作）とに変化可能である可動役物（可動部材７３，７４）と、前記可動役物に設けられ、発光した第１状態（演出発光状態）と第２状態（例えば消灯）とに発光状態を変化可能である第１発光領域（ＨＫ１）と、前記可動役物と異なる複数の部位のうちの少なくとも一つに設けられ、発光した第１状態と第２状態とに発光状態を変化可能である第２発光領域（ＨＫ２）と、遊技者が操作可能な操作手段（演出ボタン１７）と、所定の変動演出を実行可能である表示手段（画像表示装置７０，７１）と、を備え、前記変動表示において、前記表示手段の画面に表示される第１画像（例えば通常表示の演出図柄７０ａなど）と、前記第１画像が変化して画面に表示される第２画像（例えばＳＶ表示の演出図柄７０ａ）とに変化可能であり、前記第２画像に変化する前記変動演出が行われるとき、前記第１発光領域と前記第２発光領域のうちの少なくとも一つとを連係して前記第２状態に変化する発光演出が実行可能であり、前記第１画像から前記第２画像に変化するまでの第１期間と、前記第２画像から前記第１画像に変化するまでの第２期間との長さが異なっており、前記変動演出の実行中に前記操作手段を振動させる振動演出を実行可能であり、始動条件の成立に基づき前記表示手段に保留表示を増加表示することが可能であり、前記振動演出には、前記変動演出の実行中に発生する有効期間中の前記操作手段の操作に応じて実行される第１振動演出（セリフ予告演出時の振動演出、擬似連演出時の振動演出、発展演出時の振動演出、カットイン演出時の振動演出、決め成功演出時の振動演出等）と、前記有効期間を伴わずに実行される第２振動演出（先読み振動演出、ステップアップ予告演出時の振動演出等）と、を含み、前記保留表示を増加表示させる前記第１時間よりも長い時間にわたって第１振動演出及び／又は前記第２振動演出を実行可能であることを特徴とする。

10

20

30

40

50